

# 特集 エネルギーを考える

7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに

～あなたが意識することで変わる社会～



昨今エネルギー関連のニュースを見聞きしない日はありません。今、北半球はエネルギー需要が高くなる寒い季節。日本でも電気やガスの値上げ、電力の供給不足が懸念されています。この冬をどう乗り切るか、確保したエネルギーは十分なのか。エネルギー関連の動向から目が離せません。

人類は、**エネルギーを消費することで繁栄し、便利で快適な暮らし**を享受してきました。今では、多くの国、特にエネルギーの恩恵を多く受けている先進国では**エネルギーのない生活**は想像すら難しいのではないのでしょうか。

私たちを取り巻くエネルギー問題は多岐にわたり、全体を把握することが難しいものです。対する施策は小さな変化であっても、私たちの暮らしに**大きな影響**を与えかねません。また、SDGsの全ての目標の達成にも深く関係しています。私たち一人ひとりの生活に密接に関わるからこそ、個人レベルでできることがあるのではないのでしょうか。

今回は、エネルギーに関して起こっている問題を知り、「私たちにできること」を考えます。

## ざっくり押さえる エネルギーに関する事実

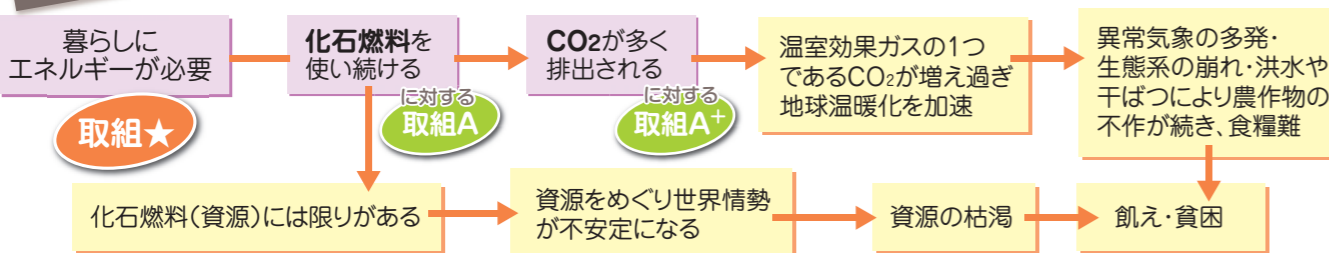
今や水や電気などのライフラインの制御もコンピューター化され、エネルギーの供給が止まると、ライフラインも止まってしまふ。

- 暮らしには**エネルギーが必要**
- 現在エネルギーは世界的に**化石燃料への依存度が高い**
- 化石燃料を使い続ける**ことは地球環境への負荷が大きい
- エネルギーや気候変動**の課題は、地球に暮らす**全ての人の問題**

**化石燃料とは** 大昔に存在していた動物や植物が、長い年月をかけて変化してできた燃料。石油（精製しガソリン、重油に）、石炭、天然ガスなど。

NIC **考えてみよう!** どんな影響があるか、この先の展開

## 押さえておきたい 化石燃料を使うことの何がダメなのか/なぜ皆の問題なのか



右の方へ向かうほど、その過程で、物や権利をめくり争いごとが生じたり、難民や避難民が出る危険性が高くなる。

気候システムにしばしば後戻りできないような大規模な変化が生じる可能性があると言われている、**ティッピングポイント\***に近づいているのではないかとされています。 \*tipping point/ 少しずつの変化が急激な変化になる転換点のこと

## パリ協定 2015年

- 世界の平均気温上昇を産業革命前と比べて1.5℃に抑える。
- 全ての国が削減に取り組む。**
- 2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロに。
- 5年ごとに**目標を改善**する。など

お薦め動画：【動画】20分でわかる!パリ協定 2016  
<https://youtu.be/bgsTR-KJON4>



NIC パリ協定では、

気候変動は**先進国が今まで自国の経済発展のためにCO2を排出し続けた結果起こったもの**だという考え方から、気候変動対策への関与にとっても**消極的だった途上国も参加し、全ての国が、CO2削減に取り組むことになった**ことが、大きな**ポイント**です。

## 目標達成のために、何ができるのか

各国の目標はこちらから確認できます

◎日本語簡易版・外務省ウェブサイト  
[https://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/ch/page1w\\_000121.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/ch/page1w_000121.html)



◎オリジナル版(英語)  
United Nations Climate Changeウェブサイト  
<https://unfccc.int/NDCREG>



### 取組A

化石燃料を使い続ける

使用を止める/割合を減らす

理想的にはすぐに化石燃料の使用を全て止めることですが、設備的、経済的にも難しいのが現状です。しかし、少しずつ、環境負荷の少ないエネルギーにシフト(転換)していくことは可能です。

→ **再生可能エネルギーへの転換(太陽光、風力、水力など)**

(資源エネルギー庁/再生可能エネルギーについてのページ)  
[https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving\\_and\\_new/saiene/renewable/index.html](https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saiene/renewable/index.html)

→ **再生可能エネルギーの技術開発**

(資源エネルギー庁/技術開発について)  
<https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2013html/3-7.html>



NIC **グリーンリカバリー**という考え方

新型コロナウイルス感染拡大による後退からの**経済復興**にあたり、経済優先の元の大量生産・大量消費に戻るのではなく、**環境に配慮した経済回復**にしていこうという考え方。日本では「**緑の回復**」とも呼ばれています。特にヨーロッパや北米ではこの考え方が浸透してきています。

### 取組A+

CO2が多く排出される

排出量を減らす

→ **技術開発**

**エネルギー効率をより良くする**など、排出量を**より少なく**できる商品の開発



### 取組★

**開発途上国にも新技術**が行き渡るように

環境やエネルギーは、地球に暮らす**皆の課題**であり、途上国で起きている問題は私たちの問題なのです。経済的に豊かな国だけが、**新技術を開発し導入**して解決するものではありません。世界人口の74%を占める途上国に暮らす**皆も一緒に主体的に取り組む**ように、資金援助をしたり、新しく開発された技術を**途上国にも普及**させることも目標達成の大きなカギとなります。

→ **国際協力**

(外務省/気候変動分野における途上国支援)  
[https://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/ch/page23\\_001646.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/ch/page23_001646.html)



NIC **こんな動きも...**

2022年9月**デンマーク**が世界で初めて、気候変動により途上国が受けた被害を賠償するため13万ドル支出することにたと報告しました。これは、これまで**CO2の排出が少なかった途上国が、気候変動の影響を一番受けやすいことを非常に不公平**だとする考えに基づくものです。

### ロシアによるウクライナへの軍事侵攻により、こんなことも見えた!

化石燃料を含む天然資源の供給国であるロシアからのエネルギー供給が停止されました。それにより、価格高騰など**供給のバランスが大きく崩れ**、不足分を**新たな化石燃料で補てん**するという国も(なかには、CO2排出量の多い褐炭を使う国も)出てきています。

このことから

- **平時でない環境問題/SDGsに取り組めない**→**長期的・継続的取り組みが必要なSDGsには大打撃**
- **エネルギー資源が政治的に使われる危険性がある**。資源保有国が国際交渉で優位な立場に立つ。
- **エネルギーの自給率を上げる**ことは、国際情勢の影響を受けにくい、**エネルギーの安全保障を確立**するということ。